

第4回生駒市医療費等適正化検討部会会議録（要旨）

1. 日時 平成24年1月30日（月）午後4時から

2. 場所 生駒市役所 401会議室

3. 出席者

（委員）

伊木雅之部会長、関本美穂委員、北岡有喜委員

（事務局）

松本国保年金課長、田中国保年金課長補佐、小林国保係長

（関係者）

（株）NTTデータ 佐藤、（株）DHデータホライズン 辻、溝添、藪

（傍聴）

2名

4. 議事内容

(1) レセプトデータ（NTTデータ）の状況について

(2) 医療費適正化の啓発について

①医療費適正化啓発パンフレットの作成

②HPでの周知・啓発内容について

③健康づくり推進員へのアンケート調査と講演

(3) その他

5. 審議案件

【案件1】 レセプトデータ（NTTデータ）の状況について

（説明）

① ジェネリック利用差額通知書作成業務とレセプトデータ活用事業について

② レセプトデータを活用した保健事業の支援について

③ 医療グルーピング技術のご紹介

（質問と回答）

- 統計資料等は別途契約、費用がかかるか。→ジェネリック利用差額通知書作成業務に付随して無償で提供。
- 集計データの提供になるか、個別データがもらえるか。→統計資料として集計したものをエクセルファイルデータで提供。個別データでの提供も可能ですが、処理に手間がかかる。
- 処理してフィルターがかかったあとのデータの提供となる。
- グルーピングしたデータに個別データが付随していて利活用できる。
- テーブル構成について資料提供が可能。
- データの提供は無償ですが、分析依頼は有償となる。
- 部会での「このようなことができるか。」というご提案に対して、事務局を通じて対応したい。
- 実施日のデータがないため「いつ」ということはわからない。月単位での把握となる。
- 医療機関については特定が可能なため「どこで」ということはわかる。
- 受診回数数の把握は可能で、医療機関ごとの受診回数数の把握も可能と考えられる。
- 例えば、高血圧についてあっちでも、こっちでもかかっているということはわかる。
- 医療機関IDがあるか。→ある。

- 個別事象から医療機関を確認することはあったが、医療機関からみていくことを今まで行ってないの医療機関からひらってデータ活用することについては確認が必要。

【案件2】 医療費適正化の啓発について

① 医療費適正化啓発パンフレットの作成

- 3月の保険証更新時に同封するパンフレットの内容を確認。
- A4の両面で、表面に国保の状況、裏面にホームドクター（かかりつけ医）ということで素案を作成。
- 表面については、財政危機の国保の状況とその原因について（表1）として赤字財政の状況がわかるグラフ、歳出の伸びに対して歳入のグラフを追加すると赤字の状況がわかる。（表2）に一人当たり医療費、（表3）に一人当たり医療費の他市比較、（表4）で一人当たり受診回数の他市比較、（表5）で一人当たりレセプト件数の他市比較を入れて生駒市が何故赤字になったのかわかるよう構成した。
- 裏面については、国保財政の課題解決に向けて、かかりつけ医を「ホームドクター」というわかりやすい表現にして、ホームドクターを持ちましょうという説明にした。
- H22年度に国保税の値上げを行い黒字となったが、いつかまた黒字にするために値上げすることになる。
- （表4）（表5）について月単位ではなく、年単位でもよいか（事務局）。
- 入院と外来をまとめているが、外来が多いので別のほうがよい。
- 日数グラフのスケールとしては、スタートを20日か、30日にすると差が多くでる。チラシのサイズを考えると表1と表3のみグラフにし、後は数値の掲載でも構わない。

②HPでの周知・啓発内容について

- HPについては作成したチラシをPDFにして掲載するとよい。
- HPの入口には目立つように医療費ゲージを掲載する。
- 医療費ゲージにするには予算だと国の交付金が全国で調整されるため必ず黒字になるとはいえない事もあり掲載に向かない。（事務局）
- 季節変動はあるか。→かなり凸凹がある。（事務局）
- 年度初めはバラつきがあるため年度末がよい。
- 途中経過で赤字というのがよい。
- 予算額にして、前年実績までと5%の伸び分とを色分けで表す。
- 対前年比が分かりやすい。
- 前年比にすると数%は必ず伸びてくる。

③健康づくり推進員へのアンケート調査と講演

- 3月初めに依頼し、3月アンケート郵送し、3月の総会で回収と講義（現推進員200名）、集計して5月第1回の養成講座（新規推進員50名）で講義と2回になる（事務局）
- 実態把握か、啓発かどちらかに決めた方がよい。
- 2回するか。
- 200人対象なので啓発としてした方がよい。
- 発信力のある方にわかっていただいてということで今回は啓発として実施でよい。
- 素案を関本委員が作成し、次回に確認。
- 実施の方式については健康課と相談し、事前に郵送するか当日配布とします。（事務局）

【その他】

- ジェネリックの普及促進事業として、薬局の認定、ジェネリック希望シールの配布を行う（事務局）。
- 差額通知の効果は2月末にわかる。香芝市で300人中100人が切替えという効果がでている。
- 大阪狭山市でも取り組まれているが効果がないと聞いている。
- ジェネリックの供給の問題があり、処方する際は病院で供給量が安定している薬剤か確認している。調剤薬局である限り規定200品目以上の在庫があることになっている。

（まとめ）

- ① NTTデータについては、見えそうなデータであるので活用する。データの使い方について質問等は事務局を通じて行う。
- ② パンプについては、原案を元に事務局で作成。
- ③ パンプにあわせてHPに掲載する。医療費ゲージは前年度同月比を使用。
ジェネリック利用差額通知の効果についてもHPに上げるとよい。変えた人の自己負担がこれだけに下がったなどを掲載できれば行う。
- ④ 健康づくり推進員対象のアンケートは関本先生が集約して作成。
- ⑤ ジェネリック普及促進事業を2件実施。